



THE UNIVERSITY OF  
NAGANO

# 長野県立大学大学院

健康栄養科学研究科ガイドブック





# 健康・栄養・食の分野から 未来のNAGANOを創造する

地球規模の急激な社会変化と膨大な情報の嵐の渦に

多くの人びとが不安を抱えています。

だからこそ、世界の潮流を冷静に見極め、地域課題の解決に真摯に取り組み、

持続可能な社会を構築していく、

より高度な倫理観と専門性を備えたリーダーが求められています。

長野県立大学は、2022年4月、念願だった大学院を開設しました。

「ソーシャル・イノベーション研究科」と「健康栄養科学研究科」。

この2つの研究科が、長野の新しい未来を創出し、

科学的根拠に基づく健康長寿を実現していきます。



長野県立大学学長  
金田一真澄







## 10年後、20年後の社会を見据えて、 5年後、10年後の自分を創造する

日々更新される膨大な情報。10年どころか5年前の教科書もすでに過去のものです。急速に革新されていく技術。子どもの頃からICTツールに馴染んでいる世代が軽やかに追い抜いていきます。さらに、急激な気候変動、多発する自然災害、COVID-19の感染拡大と落ち込む経済、そして内戦も含めた戦乱。足がすくんでしまいそうですが、それでも、AIの時代は、とどまることなく歩み続けることを私たちに求めています。

平均寿命で世界のトップレベルを誇る長野県は、3,000m級の山々と清流が織りなす雄大な自然に囲まれ、長い歴史と文化、地域特有の郷土食や祭事、結びつきの強いコミュニティなど、多くの魅力があります。一方で、少子高齢化と人口減少、生活習慣病やフレイル、要介護者の

増加、子どもの貧困や健康格差の拡大など、課題は山積みです。

多様で複雑な社会背景を踏まえ、自らの確な問いをたて、倫理的かつ科学的で合理的な解決方法を考え実践する。その結果を真摯に受け止め、論理的に考察し、持続可能な健康長寿社会を構築していくことが求められています。

健康栄養科学研究科では、健康や栄養・食をとりまく諸課題に、人びとや社会としっかり向き合いながら、創造的に取り組もうとするあなたを、力強く後押しします。国際社会が一致団結して目指すSDGs(持続可能な開発目標)の達成。健康は、全ての項目に関わっています。一人ひとりの確固たる行動は、誰一人取り残さない社会を目指す一員としての歩みです。



健康栄養科学研究科長  
稲山貴代 教授

女子栄養大学栄養学部卒業、筑波大学大学院体育研究科修了。管理栄養士、博士(スポーツ医学)。専門分野は応用栄養学、健康科学、公衆栄養学。著書『ライフステージ栄養学』『食と健康の科学』他。

## 概要

専攻	健康栄養科学専攻
課程	修士課程
学位の種類	修士(健康栄養科学)
標準修了年限	2年
入学定員	5名

## 特色

- 科学的根拠に基づき長野県の健康長寿を牽引できる健康栄養分野の高度専門人材の養成
- 長期履修制度、履修しやすい時間帯の授業開講、ICT技術を活用したeラーニングなど、社会人も学びやすい環境の整備
- 「健康栄養科学+データサイエンス」の修得、医療・福祉などとの連携による健康寿命の延伸、地域の健康づくりへの貢献
- 正指導教員・副指導教員による複数体制での修士論文指導による研究成果の発信

## 入学から修了までの特別研究指導スケジュール

健康栄養科学研究科は、正指導教員・副指導教員による研究指導体制をとっています。現場で抱えている悩みや卒業研究で抱いた疑問から“リサーチクエスト”を立て、解決法

を考え、実践し検証します。その成果を学会発表や論文で情報を発信します。最終的に、修士論文にまとめ発表し、学位を取得するまでを支援します。

### 2年間の標準モデル

#### 1年次

4月

- 研究分野および指導教員の決定

5月～

- 研究テーマの検討
- 研究計画の検討

10月～

- 研究計画の立案
- 研究計画の作成

12月～

- 研究計画書の提出
- 倫理審査

#### 2年次

7月～

- 中間発表会

～12月

- 学外の学術集会などでの発表

1・2月～

- 修士論文提出
- 最終試験・公開発表会
- 修士論文最終提出

※長期履修制度を活用する場合は、3年または4年間で修了するスケジュールになります。

## 施設・設備

管理栄養士養成施設校である本学は、遺伝子・細胞・動物実験、食品実験などの基礎的な研究から、健康教育、臨床栄養、公衆栄養(国際栄養)、地域保健などの応用研究までを可能とする施設を整えています。それに加え、データサイエンス修得のためのSPSSが利用できる情報処理ツールなども整備しています。





# 3つの方針

## 大学院で養成する人材像

- 健康栄養分野の科学に精通した高度な専門知識と技能を有する人材
- 健康・栄養行政、地域の健康づくりに貢献できるリーダーとなる人材
- 地域の食品関連産業、地方創生に貢献できるリーダーとなる人材
- 科学的根拠に基づいた研究成果を国内外の学術集会などを通し情報発信できる人材



1

## 入学者受入れの方針

(アドミッション・ポリシー)

### AP 1

健康栄養分野に関する管理栄養士と同等の基礎的な知識と技能をもち、さらに当該分野における、より高度な知識や技能を伸ばしたいという意欲をもっている

### AP 2

健康栄養分野で、公平かつ自律的に持続可能な社会の実現に向けて、積極的に地域の健康・栄養問題や食品関連産業などにおける課題に取り組もうとする精神をもっている

### AP 3

地方から国内、さらに世界に向けて情報発信できるリーダーとして活躍したいという向上心をもっている



2

## 教育課程編成・実施の方針

(カリキュラム・ポリシー)

### CP 1

研究倫理と科学的視野を涵養するうえで基盤となる知識と技能を身につける教育研究を行う

### CP 2

健康栄養分野を学ぶうえで多角的に理解するための専門的な知識と技能を身につける教育研究を行う

### CP 3

健康栄養分野に関する応用科学として、個人や集団、地域社会での応用・実践にかかわる領域について教育研究を行う

### CP 4

健康栄養分野に関する基礎科学として、健康と食品にかかわる領域について教育研究を行う

### CP 5

科学的根拠に基づいた研究成果を、国内外の学術集会などにおいて広く発信ができる力を身につける教育研究を行う



3

## 学位授与の方針

(ディプロマ・ポリシー)

### DP 1

健康栄養分野に関する高度かつ専門的な知識と技能

### DP 2

地域の健康・栄養問題について、自ら課題を発見・設定し、その課題を解決する能力

### DP 3

地域の食品関連産業や地方創生において、自ら課題を発見・設定し、その課題を解決する能力

### DP 4

科学的根拠に基づいた研究成果を、国内、さらに世界に向けて発信する能力





# 研究科と社会との関わり

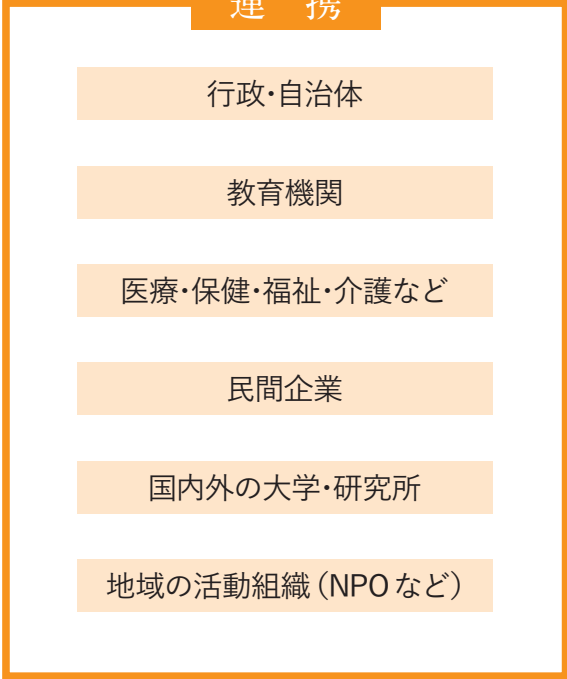
日本が抱える健康課題は複雑で多岐にわたります。解決には、地域社会の健康栄養課題を解決し健康づくりを牽引できる人材、新たな商品やサービスからの地方創生ができる人材の養成が必要です。関連する諸機関との連携を促進し、多様な場で、科学的根拠に基づく成果を社会に還元し、持続可能な健康長寿社会の構築に貢献することをめざします。

## 持続可能な健康



## 特別

### 連携



基礎健康栄養  
科学分野  
健康栄養分野に関する  
基礎科学の修得

専門共  
多角的な視点を持つ

基盤  
高度な研究倫理と

ソーシャル・イノベーション創出センター

健康栄養

## 多様な人々の栄養評価と食支援



草間 かおる 教授  
公衆栄養学、国際栄養学、健康科学

アジア・アフリカの国をフィールドとして、子どもや母親を対象とした栄養改善のための調査・介入研究を行ってきました。JICA 海外協力隊の一員として、国際栄養研究に携わったことが私の活動の原点です。現在は、国内外を問わず、母子、高齢者、地域住民、糖尿病患者など、多様な人びとへの介入研究に展開しています。応用分野では、現場がもつリサーチクエスチョンから確かな研究計画を立て、実践し、その結果を評価し、次のアクションにつなげていきます。大学院では、その成果を根拠ある情報として発信し続けることで、健康格差の縮小や健康寿命の延伸に貢献します。

アジア・アフリカの国をフィールドとして、子どもや母親を対象とした栄養改善のための調査・介入研究を行ってきました。JICA 海外協力隊の一員として、国際栄養研究に携わったことが私の活動の原点です。現在は、国内外を問わず、母子、高齢者、地域住民、糖尿病患者など、多様な人びとへの介入研究に展開しています。応用分野では、現場がもつリサーチクエスチョンから

## エビデンスと地域の関わりを考える



今村 晴彦 准教授  
公衆衛生学、社会疫学、地域保健、実装科学

ソーシャル・キャピタルを活かした健康まちづくりが研究テーマです。地域それぞれの「物語」を大切にしながら、健康に資するエビデンスをいかに根づかせるか、全国各地のフィールドから考えています。重視しているのは、多様なデータを解析・評価し、可視化するデータサイエンスの技法、そして、フィールドと向き合い、ともに考える姿勢です。実はこの原点は、修士課程で取り組んだ長野県の保健指導員活動についての研究でした。研究者として育てていただいた長野県で、地域に貢献する研究活動を積極的に推進していきます。

ソーシャル・キャピタルを活かした健康まちづくりが研究テーマです。地域それぞれの「物語」を大切にしながら、健康に資するエビデンスをいかに根づかせるか、全国各地のフィールドから考えています。重視しているのは、多様なデータを解析・評価し、可視化するデータサイエンスの技法、そして、フィールドと向き合い、ともに考える姿勢です。実はこの原点は、修士課程で取り組んだ長野県の保健指導員活動についての研究でした。研究者として育てていただいた長野県で、地域に貢献する研究活動を積極的に推進していきます。



## 長寿社会の構築

人材像 .....

▼

地域の  
食品関連産業、  
地域創生に  
貢献できる力

▼

科学的根拠に  
基づいた  
研究成果の  
情報発信



## 研究

**応用健康栄養  
科学分野**  
 健康栄養分野に関する  
 応用科学の修得

### 活躍の場

- 行政・自治体
- 教育・研究機関など
- 医療・保健・福祉・介護など
- 食品関連企業
- 健康・観光関連企業など
- まちづくり
- 地域の活動組織 (NPO など)

## 通科目

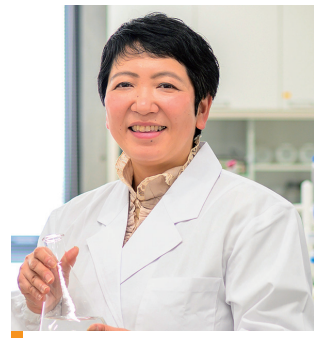
た専門分野の理解

## 科目

科学的思考の涵養

## 科学研究科 キャリアセンター

### 未利用資源から高付加価値な食品開発



**小木曾加奈** 准教授  
食品科学、農芸化学、生活科学

食品の二次機能、すなわち“おいしさ”(味、匂い、色、食感)を重視した、未利用資源の有効活用と高付加価値化について研究をしています。日本の地域の魅力を語るうえで、その土地特有の農畜産物は欠かせません。しかし、まだまだ地域には未開発の資源が眠っています。私は、これまで有機化学や力学などを学術基盤とし、長野県特有の資源であるジビエやソルガム種子の商品化を視野にいたした研究成果を発表し続けてきました。食品産業はその地域の重要な基幹産業です。食品の高付加価値化を伴う商品開発研究は、地域創生を促すものとなります。

### NAGANOから科学的根拠を世界に発信

特別研究を通して、評価につながるリサーチクエストの立て方、課題解決の手法、論理的思考能力を養います。その成果を学術集会などで発表し、プレゼン力に磨きをかけます。ディスカッションや査読への回答などの経験を積み、科学の場でコミュニケーションできる能力を身につけていきます。科学的根拠に基づく特別研究での成果を、修士論文におさめるだけでなく、NAGANOという舞台から国内、さらには国外に向けて発信していきます。目指すのは、修了後、健康、栄養、食に関わる分野でリーダーとして活躍する姿です。





# 教員紹介 (健康発達学部食健康学科教員含む)

■健康栄養科学研究科を志望する方は、出願前に志望する指導教員に必ず連絡してください。

教授\*

石井 陽子 イシイ ヨウコ

【連絡先】ishii.yoko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

人体病理学、実験病理学、健康科学

【研究テーマ】

生体の恒常性維持に関する諸因子の作用機序の解明

【担当授業科目】

研究倫理と研究法／健康医学特論／健康栄養科学実験／健康栄養科学特別研究I／健康栄養科学特別研究II

教授 (研究科長)\*

稲山 貴代 イナヤマ タカヨ

【連絡先】inayama.takayo@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

応用栄養学、健康科学、公衆栄養学

【研究テーマ】

知的障がい児・者や地域在住高齢者を対象とした肥満対策あるいはフレイル予防を目的とした健康づくり支援システムの開発

【担当授業科目】

研究倫理と研究法／栄養マネジメント特論／健康栄養科学実習／インターンシップA：健康づくり実践実習／健康栄養科学特別研究I／健康栄養科学特別研究II

教授\*

草間 かおる クサマ カオル

【連絡先】kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

公衆栄養学、国際栄養学、健康科学

【研究テーマ】

栄養ハイリスク者の栄養評価と食支援

【担当授業科目】

国際栄養学特論／健康栄養科学実習／インターンシップD：海外フィールドワーク実習／健康栄養科学特別研究I／健康栄養科学特別研究II

教授\*

杉山 英子 スギヤマ エイコ

【連絡先】sugiyama.eiko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

生命科学、脂質生化学、食品科学

【研究テーマ】

脂質代謝の調節機構の解明と摂食障害の病理理解・予防啓発

【担当授業科目】

健康栄養科学特論II／健康栄養科学実験／健康栄養科学特別研究I／健康栄養科学特別研究II

教授\*

中澤 弥子 ナカザワ ヒロコ

【連絡先】nakazawa.hiroko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

食文化研究、調理科学、生活科学

【研究テーマ】

生活文化も含めて日本を含む世界の食文化の特徴やその形成や変容について明らかにすること

【担当授業科目】

食文化特論  
健康栄養科学特別研究I  
健康栄養科学特別研究II

准教授\*

今村 晴彦 イマムラ ハルヒコ

【連絡先】imamura.haruhiko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

公衆衛生学、社会疫学、地域保健、実装科学

【研究テーマ】

地域や職域における社会環境(特にコミュニティ)に着目した、健康・栄養に関する課題発見と解決手法(政策を含む)の開発・評価

【担当授業科目】

エビデンス実装論／栄養と健康のデータサイエンス演習I／栄養と健康のデータサイエンス演習II／健康・栄養・農業政策／健康栄養科学特別研究I／健康栄養科学特別研究II

准教授

加藤 孝士 カトウ タカシ

【連絡先】kato.takashi@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

発達心理学、教育心理学、こども学

【研究テーマ】

こどもやこどもの支援に関わる人物が健康的に生活するための支援方法

【担当授業科目】

健康栄養科学特別研究I  
健康栄養科学特別研究II

准教授\*

小木曾 加奈 コギソ カナ

【連絡先】kogiso.kana@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

食品科学、農芸化学、生活科学

【研究テーマ】

地域の未利用 源を対象に分析・加工を通じた有効活用方法

【担当授業科目】

食品開発・製造特論／健康栄養科学実験／インターンシップC：地域産業連携実習／健康栄養科学特別研究I／健康栄養科学特別研究II

准教授

白神 俊幸 シラガトシユキ

【連絡先】shiraga.toshiyuki@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

臨床栄養学、基礎栄養学、臨床分子栄養学

【研究テーマ】

腸管上皮における栄養素輸送体の調節機構の解明と疾病の予防や治療に向けた基礎検討

【担当授業科目】

健康栄養科学特論I／健康栄養科学実験／健康栄養科学特別研究I／健康栄養科学特別研究II

助教

奥村 圭子 オクムラ ケイコ

【連絡先】okumura.keiko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

応用栄養学、高齢福祉、地域福祉

【研究テーマ】

地域保健・医療・介護・福祉の自立支援・重症化防止に関連した栄養課題の解決

【担当授業科目】

地域包括ケア実践論／健康栄養科学実習／インターンシップB：クリニカル・ニュートリション実習／健康栄養科学特別研究I／健康栄養科学特別研究II

講師

上延 麻耶 ウエノベ マヤ

【連絡先】uenobe.maya@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

給食経営管理學

講師

新保 みさ シンボミサ

【連絡先】shinbo.misa@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

栄養教育、行動科学、健康科学

講師

清水 昭雄 シミズ アキオ

【連絡先】shimizu.akio@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

臨床栄養学、咀嚼嚥下障害

※特別研究指導を担当する正指導教員です(7名)。

■大学院科目は担当しませんが、健康発達学部食健康学科に所属している教員です。

# 科目一覧

基盤科目	専門科目				
	専門共通科目	基礎健康栄養科学分野	応用健康栄養科学分野	学外連携科目	特別研究
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研究倫理と研究法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康・栄養・農業政策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康栄養科学特論I</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栄養マネジメント特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インターンシップA：健康づくり実践実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康栄養科学特別研究I</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エビデンス実装論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ヘルス・コミュニケーション特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康栄養科学特論II</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 医療栄養学特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インターンシップB：クリニカル・ニュートリション実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康栄養科学特別研究II</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栄養と健康のデータサイエンス演習I</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 食文化特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康医学特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国際栄養学特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インターンシップC：地域産業連携実習</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栄養と健康のデータサイエンス演習II</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康発達心理学特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 食品開発・製造特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域包括ケア実践論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インターンシップD：海外フィールドワーク実習</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康栄養科学実験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康栄養科学実習</li> </ul>		

## 大学院教育の必要性

公益社団法人 長野県栄養士会会長 / 松本大学大学院教授

廣田直子 先生

特色のあるカリキュラムを有する管理栄養士養成施設として全国的に注目されている長野県立大学ですが、4年間の学部教育では管理栄養士の資格取得を中心に組み立てざるを得ません。食や栄養、健康に関わる現状の課題解決に向けては、資格取得のための教育だけではなく、臨床や福祉分野におけるより高度な栄養管理業務、県や市町村における科学的根拠に基づいた栄養行政、教育現場で評価される食育実践、食品関連企業の研究開発職等において、データサイエンスに基づいた研究を進め、地域課題の解決に貢献できる人材が必要で

す。こうした人材を育成していくためには、学部教育の上に、大学院での学びと研究の推進が必要です。長野県立大学大学院には、実際のフィールドを活用しながら教育・研究を行い、高度な人材を育成していただきたいと思います。長野県には、すでに栄養分野とともにスポーツ分野の応用・実践的な科学を基盤にした松本大学大学院健康科学研究科がありますが、栄養分野に強みをもつ県立大学大学院が開設されることで、両大学院が連携して地域の健康を支え、長野県の健康長寿の推進に寄与してくださることを願っています。







## 大学院から広がる可能性

2022年度に健康発達学部食健康学科に着任したニューフェイスの講師や助手が大学院の学びの魅力を紹介します。

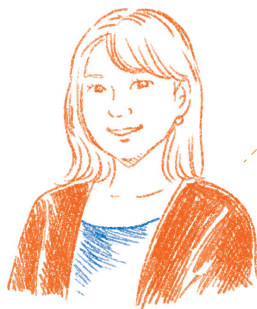
### 大学院は学びの重要性を再発見できる場所

病院勤務時代、摂食嚥下障害の栄養管理に興味をもちました。実務経験だけでなく、研究し、その成果を論文にして情報発信したいと考えましたが、当時は、やり方がわからず挫折の日々でした。そこで、リサーチクエストの立て方や論文の書き方を学びたいと、社会人大学院生として進

学することを決意しました。大学院での学びはとても楽しく、刺激的で、充実したものでした。在籍中に英語論文を1編執筆することができ、自身の目標達成の喜びとともに、成長を実感できました。大学院での学びがあったからこそ、現在も研究活動を継続することができています。



講師  
清水 昭雄 さん



助手  
吉井 瑛美 さん

### 研究を通して人びとの健康に貢献する

大学2、3年の時に受けた栄養教育論の授業が面白く、もっと勉強してみたいと思い、大学院進学を決めました。いざ研究を始めると、正解のない課題に取り組むのは困難でしたが、だからこそやりがいがありました。知識や研究スキルだけでなく、学部4年間では得られない広い視野、論理的思考力

などの力も身につけることができました。博士前期課程修了後、管理栄養士としての就職も考えましたが、研究を通して人々の健康や社会の課題解決に貢献したいと思い、博士後期課程に進学しました。今後も、健康・栄養分野から、持続可能な社会につながる研究成果をだし続けたいと思っています。

### 活躍できる管理栄養士を目指して研鑽を積む

大学在学中、サークル活動や臨地実習を通して、自信をもって指導や教育にあたるには、エビデンスを理解し、適切に判断し活用する力が必要であることを痛感しました。そこで、根拠に基づき栄養指導ができる管理栄養士を目指して、博士前期課程に進学しました。研究では、青年期の食習慣はその後

の食生活に影響をもたらすことから、大学生を対象とした野菜摂取量増加の介入に取り組みました。作業仮説通りの結果にならず、修士論文には苦勞しましたが、大学院で得た論理的思考力やデータ解析のスキルは、学部の4年間では決して得ることができない学びで、成長を実感した2年間となりました。



助手  
福井 涼太 さん

## 学費・入試について

学 費	
入学料 282,000 円	授業料(年額) 535,800 円

入 試 の 概 要
英語、健康栄養分野における専門科目の筆記試験(合計2科目)および面接により実施します。

募集人員
5名

※その他、保険料、教科書代、実習費等が必要になります。

## インターンシップ制度の活用

学外連携科目として「インターンシップ(A・B・C・D)」を配置しています。多職種連携も含め、各職域の現場における実践的な学びから、複雑・困難な課題に対する解決能力を養うことが目的です。社会経験の乏しい大学新卒者においては、現場で必要とされる実践力の修得ならびに深化、関連する社会の把握や多職種連携による業務遂行の必要性と実際に学ぶこ

とができます。社会人においては、より先進的な職場や異なる職域を経験することで、自身の職域における課題解決に結びつける力を体得することができます。「A：健康づくり実践実習」「B：クリニカル・ニュートリション実習」「C：地域産業連携実習」「D：海外フィールドワーク実習」の4科目のうち、2科目まで履修・単位修得が認められます。

## Q & A

健康栄養科学研究科に寄せられる、よくある質問をご紹介します。  
詳細はホームページを御覧ください。



Q.1 どのような方が受験を希望されていますか？管理栄養士でなければダメですか？

A.1 管理栄養士である必要はありません。健康や栄養、食に関連する分野で学びたい方が対象です。例えば、体育学部や保健学部卒で健康づくりに興味がある、経営学部卒で健康や食の分野でマーケティングと関連する研究をしたい、地域行政を学んでいるが地域の健康課題解決のためのマネジメントを学びたいなど、門戸は大きく開かれています。

Q.2 大学を卒業していないのですが、大学院を受験することはできますか？

A.2 短期大学卒や専門学校卒の方も個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認められた場合には受験が可能です。(22歳以上の方に限ります。)

また、大学を卒業してなくても、独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された方、海外において学校教育における16年の課程を修了した方、文部科学大臣に指定された専修学校の専門課程(修業年限4年以上)を修了された方なども受験が認められています。

Q.3 修了には必要な単位を取得すればよいのでしょうか？修士論文は修了要件ですか？

A.3 合計30単位を取得し、修士論文の審査に合格する必要があります。講義科目の履修だけでは修了できません。

Q.4 社会人入学者へはどのような配慮がなされていますか？

A.4 長期履修制度のほか、社会人でも学びやすいように、履修しやすい時間帯・曜日での授業開講、集中講義、eラーニングなどの環境を整えています。

Q.5 長期履修制度とは何ですか？

A.5 長期履修制度とは、就業、出産や育児、介護等の理由から修士課程の標準修業年限(2年)内での修業が困難な方の場合、3年間又は4年間での計画的な学修を認める制度です。





**三輪キャンパス** 長野市三輪8-49-7

 JR「長野」駅 善光寺口乗り換え 長野電鉄(乗車6分)「本郷」駅下車(徒歩10分)

 JR「長野」駅 善光寺口6番バスのりば 長電バス(乗車15~20分)「城山団地」下車(徒歩5分)



**長野県立大学**  
THE UNIVERSITY OF NAGANO

大学事務局 〒380-8525 長野市三輪8-49-7  
TEL : 026-462-1476 E-mail: daigakuin@u-nagano.ac.jp  
<https://www.u-nagano.ac.jp>

